



セキュリティ 長期休暇とセキュリティ対策

今年もゴールデンウィークの季節がやってきました。今年はどうのように長期休暇を過ごされたでしょうか。実は長期休暇明けはコンピュータウイルスへの感染リスクが高くなる時期でもあります。

IPAからの注意喚起

独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) では、ゴールデンウィークなどの長期休暇前にコンピュータウイルスへの注意喚起を行っています。

システム管理者へは、休暇中にホームページ改ざんなど不足の事態が発生した際の緊急連絡体制の確認や、使用しないサーバやパソコンは電源を切る、やむを得ぬ事情で業務用のパソコンやデータを外へ持ち出す場合の管理方法の確認などの事前の対策をアナウンスしています。

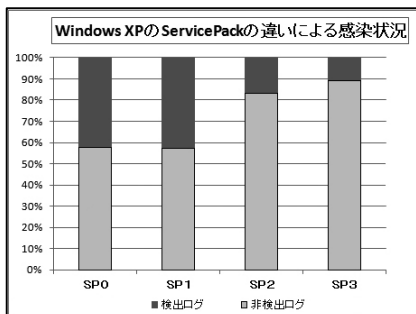
一般ユーザーへは、OSを最新のバージョンへ更新する、アプリケーションの修正プログラムの適用、アンチウイルスソフトの更新、いざという時のために重要なデータのバックアップを取るなどの対策を勧めています。

しかし、これらの対策は常日頃から施しておくべき当たり前のことです。

Windowsへ最新Service Pack適用を!

WindowsにはService Pack (SP) と呼ばれるバージョンの違いがあります。SPはマイクロソフトから無料でダウンロードしてインストールすることができます。最新のSPをインストールすることで、セキュリティ機能などを向上させることができます。(図1参照)

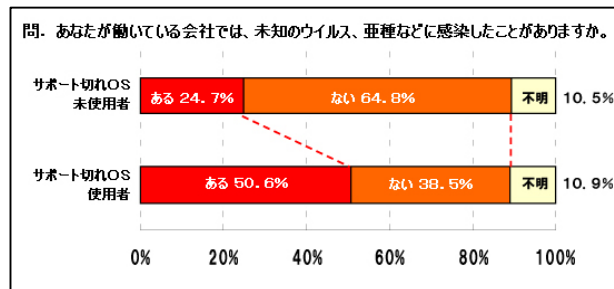
ウイルスやその他のリスクを軽減するためにも、OSやアプリケーションのバージョンアップを怠らないようにしましょう。



＜図1 サイバークリーンセンターの資料より＞

サポート切れOSは使っているも平気?

トレンドマイクロ社は4月22日に「サポート切れOS使用企業のウイルス感染経験は未使用の2倍以上」というニュースをリリースしました。



＜図2 トrendマイクロ社 WEBサイトより＞

サポート切れOS (Windows NTやWindows 98等)を使用し続ける理由はいろいろあるのですが、ぜい弱性が見つかって修正されない、最新のアンチウイルスソフトを使用できないなど、ウイルスに対する危険性はかなり高いものとなります。また、ユーザーはそれを理解した上で危険性に不安を感じながら使用し続けているという調査結果も出ています。

今年の7月にはWindows 2000の全サポートが終了します。堅牢性、安定性、動作の軽快さに優れ人気だったWindows 2000のサポート切れが今後どのような影響を及ぼすのか、注目されるどころです。

後を絶たない情報漏えい事件

先日、某有名大学で約1万3700人分の個人情報流出する事件が発生しました。流出の原因はファイル共有ソフトを使用していたことによるものです。大学の職員が内規に違反してデータを自宅に持ち帰り、自宅のパソコンでデータを使用した際、ファイル共有ソフトを通じて情報が流出した、というのがあらまじです。これまでも何度となく報道されたことがまた起きてしまいました。一度、流出してしまった情報を全て回収することは不可能です。

このような事件は、ファイル共有ソフトの危険性を十分に理解しているはずなのに、「自分は大丈夫」などという慢心から発生するものです。少しでもリスクのあるものは使用しないことが一番の防御策なのではないでしょうか。

編集後記 先日、3.5インチフロッピーディスク (FD) 生産の最大手のソニーが2011年3月でFDの販売を終了すると発表しました。最近のパソコンにはFDドライブが内蔵されていないなど、その予兆はありましたが、いよいよFDの役目も終わってしまう時が来たのかと思うと感慨深いものがあります。中学生の頃、88mk IIにペラペラの5インチフロッピーを差し込んでBASICを起動させていたのが、ついこの前のように感じます。(本田)